

2019 年度第 2 四半期 決算説明会 Q&A

Q: MLCC の在庫調整の状況は？特に車載分野の状況を教えてください。また、下期にかけての価格動向も教えてください。

A: 需要自体は当初想定していたよりも弱い状況です。特に車載関係は思った以上に回復は遅く、在庫調整が長引いております。その他スマートフォン等の民生向けは年内までに在庫調整が終息する見込みです。値下げは需要が弱まっている中で進行しているという認識です。民生向けは既に進行していますが、値下げの推移としては想定通りの水準です。車載向けについても 1 月以降から進行しますが、こちらも計画通りの水準で推移することを見込んでおります。

Q: 来年度の 5G 端末の台数見通しについて御社の見解を教えてください。また、メトロサークはミリ波で需要があるとのことですが、その取り込みが早くなりますか？

A: 今年度に関しては 5G の台数は 1,500 万台程度とみています。来期はこれから予算を策定していく過程で、台数予測を精査していきます。メトロサークについてはアンテナ周りでの使用を増加させていきたいと考えています。

Q: 来期以降の業績へのインパクトとして、メトロサークや PA モジュール、フィルタなどが与える影響を教えてください。

A: 高周波領域は、価格等も見ながらムラタの強みを発揮できる領域でアプローチしていきます。5G はその中でも注力したい分野になり、受信系のモジュールだけでなく Sub6GHz 用の送信系のモジュールやミリ波モジュールでもビジネスを展開したいと考えております。

Q: 業績予想修正の背景を教えてください。

A: セット台数の下方修正・在庫調整の長期化・為替変動が見直しの要因です。上期実績では、品種構成の良化と固定費の圧縮が進んでおります。固定費については、足元の生産減の局面で生産関連費用を工場側で抑えたことが増益の要因になっています。下期については上期の状況も踏まえてセット台数や為替を見て業績予想を組み立てました。なお、値下げについては当初計画と想定は変わっておりません。

Q: 電池の減損によって下期以降に償却費の減少などの影響は発生しますか？

A: 来期以降、年間でおよそ 50 億円程度の減価償却費や生産関連費用といった固定費の減少となる見込みです。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。